



日本貿易銀ノ行

一千八百七十九年九月廿日刊行 ジャパンガゼット新聞抄譯

大藏省
翻譯課

1

411 411



114
A3501



八百七十九年九月廿日刊行「ジャッパンガゼット」新聞

大正十一年四月
大隈侯爵贈

抄譯

日本貿易銀ノ件

此程太政大臣閣下ヨリ發令アリタル銀口ニ関スル公布ト外國
銀行ヨリ出シタル廣告トノ重大緊要ナル事件ハ一目シテ瞭然
タリ而シテ右銀口ヲ政府ノ有スル多寡ニ比例シテ通商并ニ外國
品ノ取引上ニ其影響ヲ及ボスコトハ甚ク僅少ニハアラザルベシ
右公布ノ文体ハ大ニ人ノ心目ヲ動サシムベシ抑日本造幣局ニ
於テ鑄造セシ銀口ハ孰レモ量目四百十六クライン性合九百位
ニシテ日本帝國政府ノ自ラ發行シタル真貨ナリ然ルニ今又政
府ヨリ右ノ量目性合ノ貨幣ヲ流通セシムベキ公布ノ發令アル
ニ至ルハ實ニ奇ト云ハザルヲ得ニ其儲其公布ヲ通讀スルニ其

文即左ノ如シ

〔日本銀四量目四百十六クライン性合九百位〕ハ合後税関ノ諸税其他墨銀ヲ以テ取引スベキ諸勘定ヲ拂方ヲナス為メ之ヲ差出スルハ諸官廳ニ於テハ之ヲ墨銀ト並價ニ受領スベシ蓋シ右ノ文意ハ量目并ニ性合ニ於テ公布文ノ如クナレバ勿論法償タルベシト雖モ若シ量目并ニ性合ノ公布ニ相違シタル貨幣アルハ是レ法幣ニ非ラザル旨ヲ暗ニ指示スルカ如シ若シ然ラザレバ政府ニ於テ其量目并ニ性合ヲ自カラ保証鑄造シタル貨幣タルニ之ヲ諸官廳并ニ民庶ニ受領セシムルコトニ就テ公布セラルハ如何ニ解シ得テ可ナランカ我輩ハ其旨趣ノアル所ヲ知ル能ハザルナリ夫レ銀四ノ鑄造ハ曾テ公布アリタル量目并ニ性合ニ毫モ相違ナカルベシ因テ造幣局ノ不正ヲ疑フベキ理由ハ決シテ之アラザルベシ然レモ此程太政大臣ヨリノ公布中

疑ヲ起サレテ得ザルコトアリ特ニ其挿注文ノ如キハ其最疑ヲ起スベキモノナリウアチソン氏ノ商法會議所ニ於テノ陳述ニ日本造幣ノ比例ヲ支那ニ據テ考フレバ日本銀四ハ若シ人ノヨク熟知シ且信任ヲ得タル墨銀同等ノ價位アラハ其真位ニ準シ常ニ流通スベキニ其流通セザル所以ハ嘗テ此銀四ヲ大藏省中ニ備テ用ヒザリシト云シ意見ハ余輩ノ取ラザル所ナリ又右ノ事實ハ令般發令アリシ公布中ニモ明文ナシ又既ニ鑄造ニナリタル銀四ニ三種アリテ何レモ價位同一ナラザレハ若シ將來發行スル所ノ銀四量目并ニ性合ニ多少ノ変更アリテ之ヲ墨銀ト並價ニ拂ヘル片又輸出ノ際計算スルニ其銀四ノ品位ヲ檢査スルニ臨テ之ヲ引證スルニ必要ナリシヲ以テ右挿文ヲ載セタリト余輩ハ之ヲ云ハサルヲ得ス抑令般ノ公布ハ大坂造幣局ニ於テ鑄造セラレタル銀四ヲシテ流通ヤシムル為メニアラズシ

テ量目四百十六ゲレイン性合九百位ノ銀貨ハ墨銀ト同一ノ割
合ニテ流通セシメシカ為メノミニ出タリ
斯テ外國銀行ノ日本銀口ヲ墨銀ト並價ニ受渡スベキ旨ノ廣告
ニハ量目并ニ性合ニ就テ彼ノ公布ト同一ナル箇條ヲ登錄シタ
リ而シテ右ハ其文体ノ異ナルノミニシテ余輩カ下文ニ説示スル
所ノ如シ其文ニ曰ク(横濱ニ於ケル外國銀行ハ彼銀口ヲ一定ナ
ル形状ノ銀片ト見做シ其故ハ右銀口ハ鑄造ノ費用ヲ加ヘザル
自他ノ銀片ト量目並ニ性合ニ於テ異ナル所ナク別ニ價位ヲ増
スニ非ス唯量目四百十六ゲレイン性合九百位ノ約定ヲ以テ銀
口ヲ受領スルノミ)ト是故ニ太政大臣ノ公布ハ造幣局ニ於テ鑄
造シタル銀貨ヲ試験ノ上若シ政府ノ保証シタル量目及ニ其性
合ニ相違ナキハ法貨タル旨ヲ示シタルマデナリト之ヲ讀了
セザルヲ得ズ蓋シ右ノ量目并ニ性合ノ箇條ヲ記載セシハ刺文

ニ屬セリ云フベシ

右公布ノ利害ニ付テ一問題ヲ起スニ至レリ蓋シ鑄造費ヲ加ヘ
タル銀口モ其鑄造ノ國ヲ出レバ則チ一種ノ地金タリ又鑄造費
ヲ加ヘザル銀塊ハ其性合ト量目トニ符合シタル鑄造貨幣ニ同
ク一種ノ商品同様ノ價位アルノミトス
抑造幣ノ目的ハ社會ノ便利ト商業取引ノ都合トヲ謀リ其性合
及ニ量目ノ真ニ具備セル証印ヲ捺シテ以テ之ヲ貨幣トナシ金
銀地金ニ一定ノ價位ヲ附与スルニアリ是ヲ以テ大坂造幣局ニ
於テ鑄造セシ銀口ハ即チ日本全國ニ於テハ別段ノ公布ナク凡
其法貨タルヲ判然タリ而シテ令量目四百十六ゲレイン性合九百
位ナリト其受取人ニ保証スルモ之ヲ試験スルハ老練ノ人ニア
ラザレバ之ヲナス能ハサル事業ナレハ量目及ニ性合ノ事ヲ明
載スルモ或ハ無益ニ屬スベシ

又爰ニ思憲セザルベカラザル要旨アリ彼ノ銀口ノ貿易上ノ需
要ヲ達シ政府ノ費途ヲ支辨スルニ差問ナキヲ是レナリ而ノ政
府ノ費途中重金屬ノ輸出ノミニテモ其額巨大ニシテ千八百七
十八年ヨリ七十九年ニ至ル會計年度中ニ凡ソ八百万口ニ値レ
リ然ルニ大藏省ニ存在スル所ノ銀口ハ六百万口ナルヲ聞ケ
リ而ノ其額數ノ内或ハ流通貨幣ニ供用シ或ハ英貨ノ為換手形
ニ就テ外國銀行ニ拂入ル、為メニ供スルハ蓋シ疑ヲ容ルベカ
ラス又或ハ政府ノ費用多端ノ際ハ別ニ貨幣ノ輸出スルヲモ亦
多カルベシ然リ而ノ日本ハ地金産出ニ富メルノ地ナリト思量
スル能ハザレバ其地中ニ含蓄スルモノモ亦幾許ナルヤ豫知
シ難カルベシ若シ其盡ルニ至ルハ造幣ニ供スルノ銀ハ必ス
之ヲ他ヨリ輸入スベシトスルモ何物ヲ以テ此銀ニ交換スベキ
ヤ又銀ノ輸入アリ而ノ政府ニテ之ヲ鑄造スルモ誰カ其鑄造費

ヲ支辨スベキヤ若シ政府ニテ之ヲ支辨スルトセハ即チ一國ノ
損耗タルベシ若シ人民ニテ之ヲ支辨スルトセハ即チ日本國外
ニ於テハ地金同一ニ通用スベキ貨幣ノ為メニ其鑄造費ヲ拂ハ
サルベカラス右ノ説ハ輸出スル銀口ヲ鑄造スル為メニ政府又
ハ人民ニ於テ無益ノ事業ヲ起シ之カ為メ鑄造費ヲ拂ハザルヲ
得ザル旨ヲ示スモノナリ然レモ大藏卿ハ銀口ノ供給高ハ諸需
要ヲ辨スルニ決シテ不足ヲ生セザルベシト思惟セラレタリ但
シ右決シテ不足ヲ生セザルベシト云ニ就テハ確乎タル証據ヲ
示サレシトヲ要ス又曾テ大隈公ヨリ頒布セラレタル造幣局報
告中ニ六百万口ノ銀口ヲ大藏省ニ保存セル旨ノ伸文ヲ以テ過
不足ハ自カラ判然スベシ斯テ右ノ事件ヲ照査スルニハ余輩ハ
千八百七十八年六月三十日前ニ係ル書類ノ目今有用ナルモノ
ニ據テ満足スルノ外ナカルベシ儲千八百七十八年六月三十日

ニ於テ銀圓ノ鑄造高四百七十六万六千三百七十八圓ニシテ共計七百七十九万三百五圓ナリ又千八百七十八年六月ニ於テ終ル一週年間ニハ銀圓ノ鑄造ナク唯貿易銀四十三万六千六百七十三圓ノ鑄造アリシノミ又本年六月ヲ以テ終ル一週年間ニハ銀圓ハ不通用ニシテ不用ナルニ付鑄造セラレザリキ又貿易銀ハ流通不便ナルヲ以テ其鑄造ヲ廢止セラレシナラン是ニ由テ意フニ銀圓并ニ貿易銀ノ鑄造ハ共計八百万圓以下ナルヲ知ルニ足レリ然ルニ曾テ「ジャツパンメー」ル新聞ニ掲載シタル會計豫算表ニ據レハ銀圓ノ在高八百圓ト記載アレバ貿易銀ハ之ヲ一種ノ地金ト見做シ其額數ヲ引去ラザルヲ得ズ然シテ差引銀圓ノ總額四百七十六万六千三百七十八圓ニシテ此内既ニ輸出セシ分モ故ニ大藏卿ノ手ニ存在スル殘額ハ凡ク三百万圓ヲ超過セザルベシ斯テ銀圓ヲ墨銀ト並價ニ受領スベキヲ豫期シ造

幣局ハ本年八月一日ヨリ再々銀圓ノ鑄造ニ着手シ其高日々三万圓ニ上ラス故ニ今日ニ迄リ其高多キモ百万圓ヲ超過セザルベシ若シ然ラハ大藏省ノ在高ハ共計四百万圓ナルベキ歎斯テ政府ノ商業上ニ便利ヲ與ヘントシテ注意ヲナスモ其真貨ノ用方宜キヲ得レハ紙幣ノ信用ヲ堅固ニスルノ功用アルベシト蚕氏若シ右ニ反シテ紙幣ノ價格ニ低昂ヲ起スルハ徒ニ相場師ノ事業ヲ長セシメ正商ニ大害ヲ及スベシ故ニ正商ノ需要ヲ満足セシムルコトニ注目シテ真貨ヲ使用スルニ當リ大藏卿ハ真正ナル商賈ノ有スル紙幣ヲ何時ニテモ真貨ト交換セハ計ルベカラザル國益ヲ奏シ日本帝國ノ通貨タル紙幣ハ消費者ノ間ニ流通セシムルヲ得ベシ斯テ今日ノ状態ヲ見ルニ正商ハ取引上悪ムベキ投機賣買ノ為メニ業務ヲ妨ケラレタリ此ノ如クナレバ若シ

大藏卿ハ真貨ト紙幣トノ間ニ一種比較ノ價位ヲ定メ真貨ノ用
方ニ注目シ僅々數時間ニ紙幣ノ低昂ヲ五公乃至一割ニ止ラシ
メハ本月十二日附ノ公布ハ日本全國人民ニ便益ノ高大ナルハ
鏡ヲ懸テ見ルガ如クナラン

右公布ノ施行始メハ即チ本月十九日ニシテ債幣取引ノ模様ヲ
一変シテ好勢ニ至ルモ又ハ理財上ノ困難ヲ起スニ至ルモ齊ク
是レ該公布ノ結果ニシテ其孰レニ帰スルヤハ次ノ一週間ノ經
驗ニ非レバ之ヲ判定シ難シ夫レ真貨乏フシテ紙幣ノ持主者シ
其銀圓ト交換シ難カルベキヲ發見ヤシ片ノ結果ハ真貨澤山
ナル片紙幣ノ持主交換自在ナル片ノ結果ト其利害ノ度ハ同等
ナルベシ而シテ目今債幣ノ持主ノ被リタル艱難ヲ減セント大藏
省ノ辨理ヤシ目的ノ果シテ實際ニ行ハル、ヤ否衆庶ハ該公布
ノ損益利害ヲ今日ニ於テ評論スルヲ得ザルベシ

